

### 1 自己評価及び第三者評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2890100205		
法人名	株式会社ニッコー・ケイサービス		
事業所名	グループホーム紫陽花		
所在地	神戸市東灘区住吉山手2丁目11番26号		
自己評価作成日	平成27年11月23日	評価結果市町村受理日	平成28年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaikokensaku.jp/28/index.php?action=kouhvu_detail_2015_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2890100205-00">http://www.kaikokensaku.jp/28/index.php?action=kouhvu_detail_2015_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2890100205-00</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成27年12月4日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者様個人を大切に、個人の意見、意思の尊重と共に自己決定を尊重するように努めています。施設内では、生活レクとして、利用者様各自が出来る事をスタッフと共に出来るところをサポートしながら、お手伝い頂くように声掛けし、出来ないところは、出来るように誘導する。スタッフが手を貸す。利用者様に教えてもらい、手伝ってもらった事で助かった、利用者様がまだまだ出来る、役に立てるという気持ちを持ち続けてもらえることを支援している。年齢と共に外出することが億劫になり、外出したくなる気持ちを日々の日課として、施設の近くをお散歩することを徹底しています。また、四季を感じるために行事、まつりごとなど、日常生活の中で従来、行われて来たと思われる生活習慣を大切に日々の暮らしの中に取り組みんでいます。

**【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

六甲山系の麓、閑静な住宅街の中に所在し、6階建てのうち3~4階に当該事業所を構え、各階には看護小規模多機能居宅介護事業所、訪問看護ステーション及び高齢者向け住宅が併設されている。併設の訪問看護ステーションとは24時間体制での連携がとれており、医療面における利用者や家族の安心に繋がっている。日々の何気ない利用者の言葉や表情を大切に汲み取りながらのケアを心掛けている。今年度は自治会へ加入と運営推進会議の開催を重ねるなどで、地元との繋がりが構築されてきている。又、音楽療法やアロママッサージ、阿波踊り、ハンドベルそして、歌のボランティア「はもらん遊遊」など、地域のボランティアの来訪も多岐にわたっており、今後は地域の社会資源としての更なる活用が見込まれる。更なるケアの充実を目標に、外部評価の結果を法人全体で共有するための新たな全体会議の開催が予定されている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平成25年7月以降に理念を作成し、スタッフに浸透すべく努力している。各階フロアに掲示している。	法人理念として5項目を設定し、職員研修や各フロアでの掲示などで共有している。また職員ミーティングで日々の実践を振り返る機会を設けている。	法人理念は周知され実践に繋がっているが、事業所独自のものは無い。法人理念を基に、事業所の現状などを鑑みながら職員の言葉で独自のものを設定し、更なるケアの向上に繋げていく事を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の山田地区自治会員になり、地元の保育所との交流やお祭りにも参加している。	事業所近くの公園へ出かけるうちに住民と顔見知りになったり、併設の小規模多機能事業所と共に近隣の老人ホームの「ふれあい喫茶」へ出向き、地域住民や中学生ボランティア等と交流を行っている。また地元の夏祭り際には、「だんじり神輿」の事業所玄関先での興行が恒例となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は管理者が認知症サポーターの講師をしており、今後も引き継いで行う予定。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者より出された貴重な意見をサービス向上に活かしている。	法人及び事業所職員、利用者、家族、民生委員、行政(あんしんすこやかセンター)などの参加で2ヶ月に1回開催されている。日々の行事や事故・ヒヤリハット等の報告、情報提供や質疑応答などがされ、その中で家族からは、介護負担ではなく、施設に任せていることの“負い目”についての相談が出されるなど、双方向的に話し合える場となっている。管理者は、他事業所の運営推進会議にも参加し、そこで出された事例などを持ち帰り、職員間で共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	密には、連絡していないが市町村との協力関係を築くよう取り組んでいる。	事務の手続きの相談や、研修の内容に関するアドバイスを受けるなど、随時に連絡を取っている。また定期で行われている運営推進会議では、地域包括支援センター(あんしんすこやかセンター)を通して意見交換を図っている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	学習会を何度も行いスタッフに理解してもらっている。事務所が玄関にないため、仕方なく施錠している。	年間研修計画の中で月に1回の「学習会」を開催し、専門の見地からの学習と、日々の取り組みについての振り返りを行っている。玄関の施錠については、利用者と事業所の双方でのリスク回避を念頭に置きながら、その対応を検討中である。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざれることがないように注意を払い、防止に努めている	上記のとおり、学習会を行うことで事業所内での虐待防止に努めている。	前項同様に年間研修計画の「学習会」の中で「高齢者虐待防止法」についての研修が4月に実施されている。また法人理念と合わせて、日々のミーティングの中でも立ち返る機会を設けている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	神戸市成年後見支援センターのパンフ等を利用し、学習している。管理者等は研修に参加している。	年間の事業所内研修会を設けており、また併設事業所での制度の活用事例を職員間で共有することで、制度理解を深めている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書と重要事項説明書の十分な説明を行い、その後疑問点を尋ね理解、納得してもらっている。	介護保険制度の説明や利用料金などの諸項目について管理者と介護支援専門員とで重要事項説明書を用いて説明を行い、納得を得たうえで契約書に署名を頂いている。事業所で出来る事と出来ない事や、退所時の要件についても具体的に説明し、理解を得ている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱等で意見また要望、運営推進会議等でご家族様が意見を述べられ、その場で検討したものを運営に反映させている。	日々の利用者との関わりの中での「気付き」を大切に、定期に開催される運営推進会議の中から出された要望とも合わせて、それらを職員と家族の間で共有し、実現に向けて取り組んでいる。会議に出席できない家族からは日々の来所時に生活状況等を報告すると共に、要望も伺うようにしている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関して職員が意見や提案しやすい環境づくりに努力している。フロア一会議等で聞き反映させている。	個別の支援方法への具体的な職員提案は、フロアミーティングでの議題にされ、物品の購入等が必要な事例にも随時法人のフォローが得られている。その他、労務・人事等の相談についても会議を通して法人へあげている。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各職員が働き甲斐のある職場環境条件の整備援助等を行っている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員一人一人のケアの力量を把握し法人内外の研修参加できるように援助等も行っている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームネットワークに参加している。他のグループホーム主催の学習会にも参加。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の話に傾聴し、容認することで信頼関係を築き安心して生活ができるように心がけている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の話にも傾聴し、信頼関係を深める様努力している。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自己評価をする項目に該当しない。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	大人数の家族として据え日常的な生活作業を利用者様と一緒にを行い食事等も職員と一緒に食べている。アットホームな雰囲気です。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームに本人を委せてしまわないようホームへ来所してもらうよう家族様に呼びかけている。墓参り、お正月、家族旅行等。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染の人が来所しやすい環境づくり、また、生まれた場所、住み馴れた場所に本人と出かけ懐かしがられている。(教会の日曜礼拝に送迎している)	居室には家族、友人の写真を並べ、TVや雑誌などで利用者の郷土の情報が有れば伝えるなど回想していただくように努めている。家族が定期的に面会に来られる中で、連れ立っての散歩・外食などに出かけている。 従来からの友人、知人の訪問は次第に減ってきているが、近くへの散歩での外出先で顔なじみができるなど新しい関係づくりにも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食卓の座席等も考慮し、仲の良い利用者様同士が楽しく生活できるように心掛けています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了してもこれまでの関係を断ち切らないよう心掛けていきます。違う施設に変わられた方に面会に行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの利用者様の希望、意向を把握し、それに応えられるよう個別対応しご本人本位に努めています。	日々の関わりの中で、細かな「言葉」「表情」を拾いながら、無理強いはせず何事でも「お聞きする」「何う」スタンスで接している。「その時の思い」と同時に、「少しでも過去を思い出して頂きながらの思い」も大切にしている。 難聴者へは、筆談やジェスチャーによる意思疎通も心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来るだけ馴染の暮らしが継続して頂けるよう生活歴の把握等に努めています。(教会の送迎)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人に合った一日の過ごし方(個別に対応)してもらっている。ナース、スタッフで状況を要観察することで心身状態が残存能力の把握に努めています。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様、医師、看護師、スタッフ等で話し合い現状に即した介護計画書を作成しています。	月に1回のモニタリングを行い、短期目標(6か月)と長期目標(12か月)を設定し、3か月毎にその評価を行っている。6か月目には達成度評価を行い、家族と共に検討し、次のプラン作成に繋げている。 担当者会議には管理者、介護支援専門員、フロアスタッフ、家族及び看護師も同席して開催され、主治医からは、往診時や受診時に意見を頂いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来るだけ職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既成概念に囚われず、個別に柔軟な支援やサービスに心掛けています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花の名勝(桜・梅)灘目の水車、保育所の園児との交流など楽しんでいただいている。近くの店での買い物もやっている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には24時間体制の医療をホーム提携の医師とやっている。従来のかかりつけ医へも看護師から、情報の提供等により信頼関係を作っている。この4月より医療連携する予定。	かかりつけ医は従来からの主治医の他に事業所協力医も選択できる。従来からの主治医も往診に来て頂くなど、その関係を継続している。内科以外の他科の外来受診についても、原則家族が行う事としながらも職員も対応し、いずれの場合も受診後の情報は家族と共有している。 平成27年4月からは、併設の訪問看護ステーションと主治医との連携で、24時間のオンコール体制が整えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様のその日の状態を把握し、変化があれば、随時、看護師へ連絡し、指示を求めている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、病院に頻繁に通い医療機関との情報交換や相談することで安心した治療、早期退院できるように努力している。	入院時には管理者と看護師がお見舞いに行き、家族の同意の上で随時の情報を頂くようになっている。 退院時カンファレンスにも家族と共に出席し、利用者の身体状況に合わせた退院後のケアの検討を行っている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価		
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	そのような状態になる恐れのある利用者様の場合、ご本人、ご家族様、医師、看護師、職員とよく話し合い方針を支援に取り組んでいる。医療連携で看取りができるようになる。	職員へは「学習会(事業所内研修)」をとおして、看取ることの意味、不安の軽減などについて理解を深めている。 家族へは医療連携加算についての説明を行う中で、重度化・終末期支援に向けての事業所の体制及び、様式も含めた看取り支援の流れを説明している。看取りに対する家族の意向については、利用者の身体状態が変動した機会に伺うようにしている。	主治医や看護との連携が整っており、看取りの事例も経験されている中、今後は、事業所として看取りへの取り組み・方針を「書面化」し、早い段階から職員と家族が共有することで心を共にし、利用者の高齢化・重度化が進む中で、更なる充実した支援に繋げて頂きたい。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行ってないが看護師の指導を受けています。			
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、年2回行っていますが地域との協力体制は、出来ていないが、消防署の指示に従い改善すべき点は改善している。	有事の際には併設事業所の職員との連携体制が整えられており、年に2回、併設事業所合同で、消防署も参加しての避難訓練を行っている。 誘導方法、消化方法、器機の扱いの内容に加えて、夜間帯も想定した訓練も行っている。 事業所が避難所として受け入れを行う場合なども含め、地域に貢献できる役割を探りながら、今後も取り組んでいく予定である。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>							
36	(18)		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の羞恥心を傷つけない様、配慮し、言葉づかいは、その都度気づいた点をスタッフに注意するようになっています。	「学習会」の中で、年に1回の接遇マナー研修を行っている。 職員は、日々の業務の中で常に法人理念を念頭に置き、お互いに職員同士で注意し合える関係ができています。		
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自己決定できるよう、促しながら声掛けするように指導していますが徹底されていないと思われる時があります。			
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その利用者様のペースや希望、要望に合わせ、個別対応するよう努めている。			
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の服装は基本的にはスタッフが準備しているが季節や気候を配慮しご本人と相談して準備するよう心掛けている。			

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事もその利用者様の嗜好等を考慮して配膳、下膳しています。食事の盛り付け、片付け等は、利用者様と行っています。	献立は併設事業所で共通のものが作成されており、原則、厨房にて調理されたものが提供される。各フロアの食堂にもキッチンがあり、主食(お米)はフロアにて炊かれたものを提供している。家庭的雰囲気の中で盛り付け・配膳・食器洗い等が職員との共同で行われている。月に1回の給食会議ではメニューや味付け等について検討されている。おやつ作りで、利用者と職員と一緒にたこやきやお好み焼きを作って食べることもある。月に1回は外出に出かけている。	買い出しや調理も含めた食事一連の流れに、利用者が日常的に参加される場面を増やし、個々の意思の反映や残存能力を活用する機会を積極的に設けることで、更なる支援の充実を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を毎食後に記録し摂取量を把握し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が誘導し、その人に合った口腔ケアを行う事で、清潔に保持出来る様支援している。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツの使用者もいるが個々の利用者様の排せつパターンを把握し、ペースに合わせた介助を行う事で自立にむけた支援を行っている。	各種様式にて排尿・排便の記録をおこない、その統計を個別の排せつ支援計画に反映している。夜間の安眠に繋がった。リハビリパンツ着用者が減少した。パットサイズが小さいものへ移行できた。などの改善事例が確認できた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、天候の良い日は、散歩を行っています。体操により、お腹の体操をしたり、水分量を把握して調整しています。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	強制的に入浴してもらうのではなく創意工夫しながら入浴してもらっています。それでも拒否の有る時は、無理に進めず日を変更する等の工夫を行っています。	原則、1人あたり週に2回が設けられている。浴室は個室タイプで各フロアに設けられ、一人毎にお湯を入れ替えている。脱衣場では希望によって好みの音楽を流す事もある。併設のフロアにある足浴場も設けられており、水・土曜日の午後に利用が可能である。	入浴プランは画一的になりがちであるが、時間・回数など利用者の要望を積極的に抽出したり、変わり湯など季節感を取り入れるなどで、より柔軟的な支援を期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様には、その方の生活習慣に応じた一日の生活を通してもう事によってその方のペースで過ごしていただけるよう支援している。		



自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基本的に薬の管理は看護師が行っていますが職員も、薬の用途、服薬に関して更なる知識を付けていく必要もあり。看護師と情報交換しながら、医師の指示のもとに服薬支援行っています。		
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やその方の力を考慮して家事援助(炊事、洗濯、居室掃除等)などで対応している、何もすることがないと感じておられる方もおられるので、十分支援出来ているとはまだまだ言えない。		
49	(22)		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日天気の良い日は散歩に出かけるように心がけています。その方の馴染みの場所に行くよう努めています。教会への送迎等も行っている。	遠くへは無理だが、事業所周辺で気軽に行ける水車や石碑がある公園があり、日常的に散歩に出かけている。要望があれば、職員が付き添っての買い物へ出かけることもある。家族が面会された折にも公園や喫茶店へ出かけられることもある。また、薬局等へ車で一緒に買い物へいくこともある。	
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には所持されていない、預り金で買い物にかけた時は本人がレジで支払うよう支援しています。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい方には、電話していただいています。また、年賀状等をご家族様にだしています。知人からのハガキ等に返事を出すようにしている。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その季節に応じた飾り物を利用者様と作成し、飾ることで季節感を取り入れ会話の出来る場所になっている。	内装は、淡いピンク白を基調にしており、エントランスや廊下、食堂などの共用スペースには柔らかい日差しが注ぎ、居心地の良い雰囲気と清潔感が感じられた。廊下や食堂には利用者の手芸の作品が展示されており、休憩できるソファも廊下に設置されている。構造上、スペースが区切られているが、その空間を工夫してつなげたり、畳を一部に組み込んだりして、こじんまりとした空間として居心地の良い場所として利用している。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特に独りになる場所はなく、決まった場所に座られ、気の合った利用者様と隣に座られ話をしてお過ごされています。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が今まで使用していた家具等をそのままに居室に持ちこんで従来の環境で安心して過ごせるようにしています。	居室からは六甲山系や街並みが望める。収納タンスは建て付けのものがあるが、利用者毎に使い慣れた椅子や化粧台などが持ち込まれており、家族の写真や趣味のものも飾られている。契約時に家族からお聞きした要望を基に、日々の関わりの中で得られた要望・情報が随時に反映できるよう努められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に手作りの表札。各、トイレへの案内、表示。居室の間取り図を貼ることで位置関係を把握して頂いている、生活リハビリを行い出来るだけ続けて頂ける様配慮している。		